



福井大学 カーボンニュートラル推進本部 キックオフシンポジウム

7月31日(月)、福井大学にて、主催：福井大学、後援：福井県、ふくいエネルギーマネジメント協会、ふくい水素エネルギー協議会の「福井大学 カーボンニュートラル推進本部 キックオフシンポジウム」が開催されました。福井大学では、2050年のカーボンニュートラルを達成するために、カーボンニュートラル推進本部を設立されました。地域共創型の研究マネジメント体制を構築して、地域が目指すカーボンニュートラル未来社会の実現に向けた研究開発・社会実装そして人材育成を推進されます。活動開始の周知などを目的としたシンポジウムが次のように開催されました。

福井大学上田学長による主催者挨拶などの後、(1)「福井県の施策」福井県エネルギー環境部カーボンニュートラルディレクター 岩井渉氏、(2)「福井県での脱炭素社会構築に向けた産学官連携の重要性」(株)ナカテック 技術開発研究所長 羽木秀樹、(3)「ドラマチック・ウェザーサイエンス研究センターの紹介と目指す将来像」福井大学サステナブル・ライフ研究部准教授 廣垣和正先生の基調講演がありました。その後、これら講演者に加えて、福井銀行地域創成チームの山口惇治氏、福井大学副学長・カーボンニュートラル推進本部長の末信一郎先生、カーボンニュートラル推進本部特命教授の永瀬恭一先生の6名によるパネルディスカッションが行われました(図1)。

私、羽木は、2050年のカーボンニュートラル実現には、(1)エコ、再エネの利用に加えて水素と原子力の利用が不可欠、(2)特に水素と原子力の利活用に関して、産学官連携による情報交換と技術開発が重要、(3)福井県の特徴を活かすことが重要であるとの考えをお話しさせて頂くとともに、ふくい水素エネルギー協議会の組織、活動などを紹介させて頂きました。

なお、カーボンニュートラル推進本部は、(1)研究推進・社会実装部、(2)人材育成部、(3)ドラマチック・ウェザーサイエンス研究センターから構成され、ドラマチック・ウェザーサイエンス研究センターにはナチュラル・リソース研究部、コネクテッド・エネルギー研究部、サステナブル・ライフ研究部の部門があるようです。



図1 福井大学 カーボンニュートラル推進本部 キックオフシンポジウム

福井工業大学 公開講座「脱炭素で地域振興セミナー」

8月3日(木)、福井工業大学にて、福井県との共催事業として「脱炭素で地域振興セミナー」の大学公開講座が開催されました。福井工業大学と福井県は1月に包括連携協定を締結しており、この協定に基づく活動として、この公開講座が企画されたようです。

日本政策投資銀行 設備投資研究所長 竹ヶ原啓介氏の基調講演「『脱炭素先行地域』から考える地域振興～サステナブルファイナンスを味方につける～」の後、福井県カーボンニュートラルディレクター 岩井渉氏による「福井県の脱炭素化への取り組み」、福井工業大学工学部 吉村朋矩教授による「まちの持続性を育む交通まちづくり～自転車と公共交通の活用から考える～」、敦賀市ふるさと創生課嶺南Eコースト計画推進室係長 八原和之氏による「北陸新幹線敦賀開業を契機とした脱炭素化へのパラダイムシフト」の3つの取り組み紹介がありました。竹ヶ原氏は、環境省「脱炭素先行地域評価



図2 福井工業大学公開講座「脱炭素で地域振興セミナー」

委員会」の座長であり、脱炭素先行地域を設けた目的や、申請書の評価において重要視したことなどを詳細に説明されました。

基調講演、取り組み紹介の後、福井工業大学経営情報学部 菊池武晴教授をモデレーターとし、4名の講演者によるパネルディスカッションが行われました(図2)。講演、パネルディスカッションともに、エコ、再エネの利用と、カーボンニュートラルを取り入れた地域の活性化が主な話題とされ、水素、原子力の利活用については触れられませんでした。

福井市明新公民館「たのしいサイエンス教室」

昨年度に引き続いて、7月23日(日)、福井市明新公民館の事業に協力して『サイエンス教室』の講師を羽木が担当しました(図3)。地区の中学生7名、保護者、公民館の職員を対象として、金属の性質についてお話しした後、金属の強度、磁性、密度、電気抵抗を実験的に調べて頂きました。金、銀、鉛、純アルミニウムは力を加えるとすぐに曲がりますが、ステンレス鋼、チタン合金、タングステン、モリブデンはかなり強く力を加えないと曲がらないこと、長さや質量の測定から密度を測定し軽い金属と重い金属があること、金、銅、アルミニウムの電気抵抗は小さいことを体感して頂きました。



図3 「楽しいサイエンス教室」

たのしいサイエンス教室

＝青年教育事業＝

日程：7月23日(日)
参加人数：7人(中学生)
講師：工学博士 羽木秀樹氏
(ふくい水素エネルギー協議会 事務局長)

自動車や自転車、硬貨など私たちの身の回りにある金属製品には、鉄や鉛、ニッケルなど多くの種類の金属が使われていて、それぞれの金属の特徴を生かし、さまざまな製品に利用されていることを学びました。実際の金属片を使ってその種類を調べました。やわらかい金属は鉛かな？磁石にくっつく金属は、鉄かな？今まで見たことのない「精密な測定器」の使い方に悪戦苦闘しながら、体積を計算し、重さを測り、密度を計算し、どの金属が調査しました。参加した中学生からは、「金属について知らなかったことが分かってよかった。」などの感想が寄せられました。

図4 明新公民館の広報誌「めいしんタイムズ(第191号)」

開催結果は、公民館の広報誌「めいしんタイムズ(第191号)」に掲載されました(図4)。

福井県グリーンボンド

2050年までのカーボンニュートラルの実現を目指して、省エネルギーを推進し、再生可能エネルギーの導入拡大を進めるなどして、福井県は二酸化炭素排出量を削減し、地球温暖化を抑制しようとしています。原子力発電所が多く立地する嶺南地域では、経済産業省資源エネルギー庁の共創会議での指針に基づき、エネ高事業(エネルギー構造高度化・転換理解促進事業)の補助金が活用されていますが、福井県内全域での事業推進には十分でなく、県独自の財源として「福井県グリーンボンド」公募債を発行して、事業資金に充てようとしています。今年度は、10年満期で発行総額50億円、10月以降に発行する予定です。「福井県グリーンボンド」の主な充当予定事業として、表1の事業が挙げられています。この表を見て、「おや？」と感じるのは私だけでしょうか？「水素」の利活用が主となる事業が無いのでは！これで良いのでしょうか？

表1 福井県グリーンボンド(https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/zaisei/greenbond_d/fil/fukuiprefgb_fw.pdf)

事業区分	対象事業	
クリーン輸送	公共交通機関の整備	北陸新幹線の整備と地域鉄道の基盤整備
	公用車の電動化	EV・充電設備の導入
再生可能エネルギー	再生可能エネルギー設備の導入	太陽光発電・小水力発電の導入
エネルギー効率	公共施設などの省エネ化	新築施設のZEB・ZEH化、空調など設備の省エネ化、照明のLED化
クリーン輸送、再生可能エネルギー、エネルギー効率	港湾地域の脱炭素化	敦賀港におけるCNP形成の推進
生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理	森林資源の保全	林道の整備、施設などの木造・木質化
	水産資源の保全	漁港・漁場の整備、県立大先端増養殖学科の整備など
	自然公園の整備	公園における環境保全阻害防止対策
気候変動への対応	風水害対策	河川・ダムなどの整備、ため池などの整備、中部縦貫自動車道の整備
	土砂災害対策	砂防施設・治山施設の整備
	高潮・高波対策	港湾施設・海岸保全施設の整備

理事会の開催

敦賀市、福井県のエネ高事業採択に伴って、ふくい水素エネルギー協議会は、「地域の水素需要などの調査事業」を受託しています。これら事業の進捗状況や今後の事業計画などについてご検討頂くために、9月22日(金)に理事会を開催します。

一般社団法人 ふくい水素エネルギー協議会
〒919-0411 福井県坂井市春江町藤鷲塚37-9
株式会社 ナカテック内 事務局 羽木
TEL : 0776-58-3930 FAX : 0776-51-5144